

文語日誌(平成二十五年六月七日)

**CHATELET**(シャトレ座)

バスティーユのオペラ座に比しても公演の水準は高く、一流歌手の登場する機会も数多あり。ブーレーズ指揮の「ペレアスとメリザンド」など格別の人気演目は、當日にては、切符を買ふ能はざりき。客席数約二千五百。

シーズン九〇・九一年

**LA DAMNATION DE FAUST**(ファウストの劫罰)(九〇年九月)

ベルリオーズ作曲。舞臺には空中ブランコの振り子のみありて、演奏會形式なり。マルガレーテ役のヴァルトラウテ・マイヤーは八六年にケルンにて「トリスタン」のブランゲーネを見てその實力に驚嘆して以來の再會なり。佛蘭西人にも人氣の高き、今を盛りの名歌手とこそ言ふべけれ。

**SEMI RAMIDE**(セミラーミデ)(九〇年一〇月)

ロッシニ作曲。演奏會形式。人氣高き演目にて、四十分ほど並びて漸う切符を入手するを得。八六年にコヴェントガーデンにて接したるジューン・アンダーソン、マリリン・ホーンの組合せには及ばざるも、クベツリ、デュピユイもなかなかの名演と覺ゆ。今賣り出し中の米國人テナーのロックウエル・ブレイクは、稍鼻聲の如くなれど技巧は驚異的にて聽衆の拍手を攫へり。

**RECITAL EWING**(ユーイング)(九一年二月)

米國のメゾ・ソプラノ、マリア・ユーイングの歌曲リサイタル。ブラームス作曲「我が愛は緑」の第一聲の聲量の餘りの豊かさに聽衆一同衝撃を受く。シュトラウス歌曲のあと、地元のドビュッシー歌曲となりて觀客の反應、頂點に達しぬ。アンコールは、①「セヴィリアの理髮師」より「今の歌聲は」、②「トスカ」より「歌に生き戀に生き」、③「ボギーとベス」より二曲。カラスの全盛期もかくやと言ふも誇張にはあらず。

**LES COGNES D'HOFFMANN**(ホフマン物語)(九一年三月)

オツフェンバック作曲。オランピア役のカナダ人ソプラノ、ダール、音程こそ幾分不安定なれ、コロフトウーラにて大いに觀客をば沸せり。アントニア役のルーマニア出身のヴァレンティナ・ヴァドヴァは、オペラコミックの「マン」を見て以來にて、役柄に良く合ひをり。母親の棺桶より出で來る場面は鬼氣迫るものなりき。ジュリエッタのハリイズ、流石に貫祿あり。指揮のエリアフ・インバルも見事。

**ARIANE ET BARBE BLEUE**(アリアーヌと青髭)(九一年四月)

デユカ作曲。曲はワグナーとも似通ふ。上げたる髮に緑の服の日本人女性ソプラノ(濱田理恵さん、二十六歳)好演す。

シーズン九一・九二年

**LULU**(ルル)(九一年九月、十月)

ベルク作曲。タイトルロールは、米国人ソプラノのパトリシア・ワイズ。八六年にミュンヘンにて「リゴレット」のジルダを見て以来なり。歌手には稀のスタイルの良さ、役柄に合致する名演技も稱賛に値す。ジゴルヒ役なる獨逸の名歌手ハンス・ホッター（一九〇九年生まれ）は六九年に東京文化會館にてシューベルトの連作歌曲「冬の旅」を聞いて以来二十二年振りの再會なり。八十歳を越ゆるも存在感は抜羣、聲の威力ありて、ホッターもこれにて見納めかと思へば涙禁ずる能はず。フラスベンダー、猫背がちとなれど、歌は依然として一流。指揮のジェフリー・テイトの音響性も比類なし。三幕に日本人歌手小林マリさん登場す。（本公演の實況録音、後日EMIよりCD化せられたり。）

**WOZZECK**（ヴォツェック）（九二年六月）

ベルク作曲。伯林國立歌劇場との共同制作。指揮はバステイーユの總監督を辭したるバレンボイムにて、バステイーユへの挑戦状とも言ふべき燃ゆるが如き上演なりき。タイトルロールのグレンツヘーバー、マリー役のヴァルトラウテ・マイヤーは共に當たり役。キャプテン役のグラハム・クラークも好演す。聴衆の集中を離さざる力は並外れたるものにて、不朽の名演と言ふべし。

シーズン九二・九三年

**EUGENE ONIGUINE**（エフゲニ・オネーギン）（九二年九月、十月）

チャイコフスキー作曲。タチアナ役の伊太利人ソプラノのフオチレ、小粒に過ぎて無理あり。レンスキー役はニール・シコフ、名歌手なれば聞かせ處の aria は流石なれど、演技の無さにはやや幻滅す。オネーギン役はシベリア出身の若手、ホロストフスキー、今後の活躍楽しみなる有望歌手と覺ゆ。

**RECITAL ROSSINI**（クベツリ&デュピュイ）（九二年十二月）

ロッシニ生誕二百年の最後を締め括る、ソプラノのレッラ・クベツリとフランスの誇るメゾ、マルティヌ・デュピュイによるジョイント・リサイタル。二重唱は素晴しけれど、暗譜のクベツリに對して、デュピュイのみ楽譜を手放さざるは興醒めの感あり。

**LATRAVIATA**（椿姫）（九三年二月）

ヴェルディ作曲。期待外れの舞臺、冒頭場面すべてカーテンの前にて演ずるは費用節約の爲かと覺ゆ。さはあれどタイトルロールのヴェロニカ・ヴィジャエルはチリの出身、冷たき美人にてカバリエの若き頃にも似たる雰圍氣なり。ダブルキャストのポーランド出身のジュシー・デヴィニユは椿姫の専門家として名高く、水準高し。

**LECHATEAU DE BARBE BLEUE**（青髭公の城）（九三年四月）

バルトーク作曲。現代最高のドラマティックソプラノ、洪牙利出身のエヴァ・マルトンの十八番。母國語のハンガリー語なれば、悪からむ筈も之無し。餘りの名演なれば、同一公演に再度足を運びたり。